

こぐまサークルニュースレター

2019年度 第2号(11月)

川島町中山 1733-2 ☎ 297-3000

HP <http://tonegawayoutien.jp/>



こぐまサークル 残り4ヶ月

園長 笛木 哲

まだ夏の日差しが降り注ぐ中で行われた「ちびっこ運動会」、初秋の彩りを楽しみながら親子で散策した「子ども動物自然公園への遠足」、冷たい風が冬の訪れを感じさせる中での「給食試食会」と季節が移ろう中、担当の山根教諭が企画する様々な活動にご参加いただきました。その中で、親御さんとお子さんの成長を共感し、また子育ての難しさを共有してきました。そんな『こぐまサークル』の活動は、残り4ヶ月となりました。寒い冬ではありますが、今後も身も心も温かくなるよう活動を進めてまいります。就園前の親子で過ごす大切な時期の一コマとして、今後もふるってご参加ください。必ず集団生活へと繋がります。



■ビタミンI(アイ)って何？

子ども達に一番必要なものが何だか分かりますか？ 考えてみてください。友だち？ 睡眠？ お金？ 遊び？ 学習？ 運動？ 皆さんはどんなものを思い浮かべるでしょうか？

先日読んだ本に書いてありました。子ども達に一番必要なものは「愛」であると。「君を愛しているよ」「君は何よりも大切だよ」という親から子への掛け値無しの「愛」です。子どもは親か

ら、「本当に愛されている」と感じた時、自信を持ち輝くことができます。子どもを「愛して」ください。毎日、子どもに心からの**ビタミンI(愛)**を注入してください。就園前の今こそ、子ども達に**ビタミンI**が必要です。



■子どもをだめにするのは簡単

徳川家康(幼名 竹千代)は、人質として今川義元のもとで育てられました。その養育係の関口親永は、竹千代が将来、今川家に役立つ武将となるように「厳しく鍛えたい」と養育方針を述べます。ところが今川義元は、竹千代が勇猛果敢な武将に成長し、いつか今川家を脅かす強敵になったら大変と思い、「むごく育てよ」と命令します。「人を育てるに当たって一番むごい方法は、美食を与え、わがままにさせ、甘やかすことでありその上、褒めちぎることである」と付け加えたそうです。

さて、目の前にいる私たちの子どもはどうでしょうか。いずれ自立した頼もしい人間に育てと願いつつ、とりあえずぐずらないでくれればいいやと、我が儘に任せ、甘やかしていないでしょうか。子どもの思いを全て受け入れるのではなく、時には厳しく接すること(躰)で、人から頼られるような自立した人間に成長します。子どもを甘やかすだけ甘やかしてだめにする親を「バカ親」といい、子どもが大好きだから子どものために一生懸命になる親を「親バカ」というそうです。私たちは、子どもを潰す「バカ親」ではなく、子どもを伸ばす「親バカ」になりたいものです。こぐまサークルはそんな皆さんを応援します。

■子どもの好奇心を伸ばす 山根の仕事

何事にも興味をもって、自分から進んで行動し考える甘い育てない者だと常々考えています。ところが子どもの興味関心は散漫で、飽きやすく、長続きしません。子どもの好奇心を育てるために、教師も親も苦勞しています。

ある親の子育て記には、「私は、子どもに何も押しつけなかった。私がしたことは、子どもが興味を持っていることに関する本を、その都度、本棚に並べておくことであった」と書いてありました。子育てが本になるくらいですから、きっと凡人には思いもよらない子育ての秘訣があるのでしょうか、この一文だけでも参考になります。親の仕事はおしつけず、子どもの悟られないように環境を整えることが大事なようです。子育て記はさらに続きます。「本棚に並べる本は、1・2年生であるなら、3・4年生の本というように、子どもの頭脳を刺激するちょっぴり高度なものがよい」と

ともすると、黙っていても親の愛情は子に伝わるものだと思いますが、時にはエリのように言葉にして子供に伝えられる親であって欲しいと願います。

こぐまサークルにようこそ！

園長 笛木 哲

先日、

また、子育てに関する不安やお悩みなどありましたら、遠慮なくお知らせください

幼稚園は、幼児が幼児期にふさわしい充実した生活を展開できる場として、意図的な教育を目的としています。家庭は、

って、今あることの意義や命の大切さ、親への感謝に至るのだと思います。

※3つ子の魂百まで 子は親が育てたように育つ 親は子の鏡 こぐま?こ像だろう